

■重篤な疾患を持つ患者との話し合いの手引き

重篤な疾患を持つ患者さんとの話し合いの手引き（Serious illness conversation guide）は、米国の Ariadne Labs の緩和ケアに携わる医療専門職チームによって作成されたものである。この手引きは、すべての重篤な疾患を持つ患者が、医療の決定プロセスにおいて、目標、価値観、優先事項等について、適切な時期に医療者と話し合えることを目指している。

重篤な疾患を持つ患者との話し合いの手引き

話し合いの流れ	患者に対する話し方の例
1. 話し合いを始める ・目的を伝える ・将来の意思決定のための準備 ・許可を求める	「あなたが今後希望される医療やケアを提供することができるように、あなたの病気が今後どうなっていくかをお伝えし、あなたにとってどんなことが重要か、前もってお聞きしておきたいと思うのですが、 よろしいでしょうか？ 」
2. 患者の理解と意向を確認する	「ご自分の病状についてどのように 理解 されていますか？」 「今後、病気がどうなっていくかについて、 どの程度 お知りになりたいですか？」
3. 今後の見通しを共有する ・「…だとよいのですが、…を心配しています」「…を願っていますが、…を心配しています」などの表現を使う ・間を置きながら話し、感情を探る	「あなたの病状について、 私が理解している範囲 でお伝えしたいと思います…」 不確実性：「あなたの病気が今後どのように進行するか予測する事は難しいと思います。できるだけ長く、 病気が進行せずに元気で過ごしていただきたいと思っています 。同時に、病状が急に悪くなる可能性もあり、そのことを（とても） 心配しています 。そのもしもの時に備えておくことが大事だと思うのです。」 または、 時間的予後：「 そうでないと良いのですが 、残された時間が、_____（例：日単位～週単位、週単位～月単位、月単位～年単位の期間で示す）くらいになってきている可能性があることを 心配しています 。」 または、 機能的予後：「 大変申し上げにくいのですが 、あなたが感じているより病状は差し迫っているのではないかと思います。そして、今後、もう少し難しい状況になる可能性があることをとても 心配しています 。」
4. 大切なことについて聴く ・目標 ・恐れや不安 ・支えになるもの ・欠かせない能力 ・延命治療の範囲 ・家族	「万が一病状が更に進んだ場合のことを考えたいと思います。病状が進んだ場合、 どんなことが一番大切 ですか？」 「今後の病状に関して、 一番不安 に思っていることは何ですか？ どんなことが心配 ですか？」 「これから病気と付き合っていく上で、どのようなことがあなたの 支え になると思われますか？」 「あなたにとってとても大切で、これができないまま生きていくのは考えられない、と思うのはどんなことですか？」 （例：口から食べられること、身の周りのことが自分でできること、家族とコミュニケーションが取れること、など） 「病状が更に進んだ場合、余命を伸ばすためなら どの程度の治療であれば 、たとえつらくてもやっていきたいと思いませんか？」 「 ご家族 は、あなたのご希望や大切にしたいことについてどのくらいご存じですか？」
5. 話し合いを締めくくる ・要約 ・推奨事項を説明する ・患者に確認する ・患者に協力することを伝える	「あなたにとって_____がとても大切だとおっしゃいましたね。それを考慮に入れると、現在の病状では_____を お勧めします 。」 「こうすれば、あなたが大切にしたい事を今後の治療の方針に反映できると思います。」 「この方針をどう思われますか？」 「あなたの力になれるように、私も全力でお手伝いいたします。」
6. 話し合いの内容を記録する	
7. 主治医や他の専門職に伝える	

引用：

英語版 2015 Ariadne Labs: A Joint Center for Health Systems Innovation (www.ariadnelabs.org) and Dana-Farber Cancer Institute. Revised April 2017. Licensed under the Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License, <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

日本語版翻訳 木澤義之（神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科）

竹之内沙弥香（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻先端基盤看護科学講座）